

# 中国語の環

第124号

『中国語の環』編集室編 2023年9月

- 目次 9 **巻頭エッセイ** SDGsなピンイン
- 10 **中国語でどういう?** …するものか!
- 11 **例文で説き(=解き)ほぐす中国語文法**  
Lesson 8 ペアを求めて…(その1)
- 12 **語彙学習の話** 動詞について
- 13 **紛らわしい文法表現** “V了”と“V过了”
- 15 **看图学汉语** 絵で見ることわざ(14)
- 17 **中国語と文化** 太鼓と声調と青と情と
- 18 **中国語の文法は面白い** 動詞がどんな時に重ねられるか(1)
- 19 **読者の広場** 中国語検定1級合格体験記

## ひとことエッセイ

“椅子”の語釈にわざわざ「背もたれのある」とするのはおかしい、「椅子」は背もたれがあるに決まっているのではないかと記して、待てよそうでもないかと迷いが生じた。教室での講義や学習者を対象にした講演で、背もたれのない腰掛けを持ち上げて、「これは椅子ではないですよ」と言っても、この頃は頷いてくれる人が少なくなったように思われるからである。駆け出しの頃はそうでもなかったのだが……。

椅子をいす、イスと仮名で書いて、倚→椅からくる寄り掛かる道具という語源が意識されなくなると、背もたれがあろうとなかろうと腰掛けに変わりがないではないかというところで、日本語では“凳子”と“椅子”の区別が忘れられつつあるのであろう。

使用目的ではなく形状によって区別される傾向の強い中国語では、この種の混用は起こりにくい。同じく履物の一種「くつ」であっても、短いか長いかによって“鞋”と“靴子”に区別され、同じく時刻を示し、時間を計る器具であっても、大小の違いによって“钟”と“表”にはっきり分けられるのも、いかにも中国語らしい。(上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・  
複写・転載することを禁じます。

## SDGsなピンイン

藤井久美子（東洋大学）

この原稿を目にされる方の中には、中国語を学び始めて少し経ち、初めて中国語検定を受けてみようと考えた方もいらっしゃると思います。そうした方にとって大きなハードルの一つはピンインの存在でしょう。では、なぜ、ピンインは中国語初学者にとって難しく感じられるものなのでしょう。

ピンインに用いられるアルファベットは、日本では一般的に国語（日本語）のローマ字として、あるいは、外国語である英語の表記法として学び始めます。そこで、日本語や英語での読み方が身に付くようになると、それらとは大きく異なる発音を示すこともある中国語のピンインは難しいものと考えられてしまいます。

そもそもですが、中国語のピンインは、音については無標である漢字という文字の音を示すために、17世紀初頭イタリア人宣教師によって考案され、その後19世紀末になると、中国人による中国語の表音文字化が始まりました。考案された文字には、アルファベットもあれば、日本語の仮名のような漢字筆画式もありました。それらが、中華民国時代に、一つは現在のピンインにつながるアルファベットを用いたものと、もう一つは今も台湾などで用いられる注音符号に集約されていきました。中華人民共和国が建国されると今日のピンイン（「汉语拼音方案」）が公布されるわけですが、研究を通してここまでの苦難の歴史を見てきた一人としては、ピンインはとても尊いものに思えてなりません。ですから、中国語学習は楽しいけれどピンインは苦手（好きではない…）という初学者の皆さんの声を聞くと、これは何とかしなければ！と考えてしまいます。

そこで、ピンイン学習がなくなった時には、少しだけ、ピンインのために生きた（生きている）こんな人々や歴史を想像してみてください。中国語表記を見た非漢字圏の人々が、日本語の仮名のように何か別の文字でその音を示せないかを一生懸命模索したであろう姿を。また、時にはソ連（当時）の人々と協力して人々の識字率を高めようとしたことを。さらには、19世紀以降、国民国家化をいち早く成し遂げた欧米列強などの攻撃により内憂外患の状態に陥った国を守るために、一連の「文字改革」を通して国家語（標準語）を作り上げることを目指した人々がいたことを。そして、今日なお多様性を有する漢語世界で、ピンイン（等）を通して中国語の共通性を高め、武力ではなく、言葉で直接通じ合える社会を作ることをあきらめない人々が世界中にいることを。だからこそ、ピンインで示される中国語音節表には146もの「愛 “i”（“y” 表記を含む）」が含まれるのです。

ここまでのお話を通して、ピンインを学ぶのは今日SDGsが目指す未来に向けた行動の一つであることに気付いていただけましたでしょうか？ピンインには愛だけでなく、夢や希望も含まれていることに共感いただければと思います。

## …するものか！

張 勤（中京大学）

どの言語にも何かしらの「強調」と説明される表現がある。中国語なら、(1)にあるような“才”がその一つだ。

(1)我才不愿意去呢。(僕は行きたくないよ。)

中国語学習者は、その論理的な意味が理解できても、どんな場面で使うか、表現としてのインパクトがどんなものなのか、などに関してはなかなか把握しづらい。どの言語もそうだが、いわゆる「強調」の表現は表現の場面に密着し、話者の心情まで直に表しており、何よりも日本語に訳して理解することがほぼ不可能に近いからである。ネイティブ・スピーカーなら一日何度も口にするこの“才”がいったいどのような仕組みで何を「強調」しているのだろうか。

(2)A：快走，去晚了，小王该生气了。(早く行きなさい、遅れたら小王が怒るわよ。)

B：小王才不会生气呢。(小王は怒らないよ。)

(3)A：你再也不回家，你爸要让你进屋了。(もう家に帰らなかったら、お父さんは家に入れてくれないよ。)

B：我爸才不会呢。(お父さんはそんなことしないよ。)

上例を観察すると、いずれもAが言っている考え〔(2)“小王该生气了”，(3)“你爸不让你进屋”〕に対して、Bが否定するという流れとなっており、「違ふよ」と相手の考えを改め、「こうだよ」と自分の主張をするのに“才”が添えられている。

(4)A：你放这么多醋干嘛？(どうしてそんなに酢を入れるの？)

B：醋多才好吃呢。(酢は多めのほうがおいしいんだよ。)

(5)A：你给她打电话吗？(彼女に電話する？)

B：我才不给她打电话呢。(電話なんかしないよ。)

(6)A：你没看昨晚的足球比赛吗？(昨夜のサッカー試合を見なかったの？)

B：我才不看呢。(見てないよ。)

(4)は“放这么多醋干嘛？”との疑念を打ち消し、(5)(6)は質問内容を否定した上、「こうだよ」と主張するのに“才”が用いられる。いわば、相手の考え、疑念や質問内容を強く否定し、自分の主張をしていくというのが“才”による強調の内実だ。

(7)A：奶奶，这里还有空，我再画些树吧。(おばあちゃん、ここにまだスペースがあるから、もう少し木を描かせて。)

B：要适当留白才好看。(適度な余白があったほうがきれいに仕上げられるよ。)

(7)にある“才”の意味について「～してはじめて～」と説明されるのがふつうだが、会話の流れから見れば、Aの“我再画些树吧”の考えを否定し、「こうだよ」と主張する意味も表しているのだ。(7)“才”は(1)～(6)とつながっているのだ。

この“才”のニュアンスは日本語ではどんな言い方で表されているのだろうか。

## Lesson 8 ペアを求めて…(その1)

古川 裕 (大阪大学)

中国語には単独＝シングルでは不自然なのに、ペア＝ダブルにすると一転して自然になるという面白い現象があります。これは日本語や他の言語ではあまり見られない中国語の個性の一つです。

形容詞が述語になる文は初級レベルで必ず勉強します。たとえば「今日は暑い」という状況を中国語で伝えたいとき、例1a“今天热。”のままでは成立しないので、1bのように“很”を添えて“今天很热。”のように言いなさいと教わります。しかし、わざわざ追加した“很”なのに、これは別に程度の高さを表すわけではないので「とても(暑い)」と訳す必要はないなんて説明されます。ヘンなルールですよ。

実は、1aが不自然な理由は、1cのようなペア＝ダブルになっている表現の片割れだけしか言っていない感じがするからです。日本語でも「今日が暑い。」という言い方は、何だか落ち着きの悪い奇妙な表現ですよ。単独＝シングルの文だから独り立ちできないのであって、ペアを連れてきて1cのように対比のニュアンスを持つ表現に戻せば、1aも一転して生き返ってくれます。このように見てみると、1bで加えた“很”は「昨日と比べて…」のような対比のニュアンスを打ち消すために働いていると考えることができます。

(1a) #今天热。(＃は、その文が不自然で成立しにくいことを示します)

(1b) 今天很热。「今日は暑い。」

(1c) 昨天冷，今天热。「昨日は寒かったが、今日は暑い。」

また、「前からバスがやってきた」ような場面に遭遇したとき、中国語では“前面开来了一辆公交车。”のように表現します。モノの出現を表す現象文の表現ですね。ここで注目したいのは、日本語で「前(まえ)」は単独で使える単語なのに、中国語の“前”qiánは単独＝シングルのままでは使えない字であるという点です。“前面、前边、前方”のように2文字(2音節)にしたり、“駅前、车站前”(駅前)のように別の語の助けを借りないと使えません。しかし、ここでもペアを持ってきてダブルにすると“前”qiánは一転して単独でも使えるようになります。たとえば、“前后”qiánhòu(前後)とすれば反義語のペアを組み合わせた2音節語として安定します。また、(2)のように“前：后”ペアの安定性を利用した四文字句がたくさんありますし、諺・慣用表現や詩文の多くが典型的なペア表現である対句を使っていることにも納得がゆきますね。

(2) 前因后果、前思后想、思前想后、空前绝后

(3) 前怕狼，后怕虎；前不着村，后不着店

(4) 前不见古人，后不见来者(陳子昂《登幽州臺歌》)

シングルがだめでも、ペアを求めてダブルになればOKなのが中国語の面白さです。

## 動詞について

沈 国威 (関西大学)

動詞は実語に属し、人や物事の動作、存在、変化を表す語であり、文の中では主に述語として振る舞う。中国語の動詞にはいわゆる形態変化はないが、“**吃吃；看看**”のような重ね形式がある。また形態的に自他動詞の区別ができないので、ある動詞が目的語を従えられるかを個別に覚えなければならない。中国語には「姓(李)、属(马)、甘于(奉献)、叫作(志愿者)、意味(着反对)、做为(学生)」など「粘着動詞」と呼ばれる一群の語があり、目的語が必須である。中国語には「**给、教、送、问、找**」など、授受を表す動詞がある。“**他给我一本书。**”“**李老师教留学生汉语。**”“**你还没有找我钱呢。**”のように直接目的語(下線部)と間接目的語の2つの目的語を取る。但し数は少なく、ほかの動詞は間接目的語を導入する際、“**我给他写了一封信。**”のように介詞“**给**”を使う必要がある。

中国語の動詞は、自他の区別といった特徴の他に、語長、つまり字数も非常に重要である。『国際中国語教育標準』には動詞が3,500語あり、全語彙11,092語の31.1%を占めている。字数(中国語では音節数)の統計は以下の通りである。

一字語	820 (23.4%)	二字語	2,652 (75.8%)	三字語	28 (0.8%)
-----	-------------	-----	---------------	-----	-----------

一字動詞は数こそ少ないが、一方で語素(「語」以下の単位)と関連付けられ、もう一方で二字動詞と対応関係を持ち、正にカナメである。まず、語素と一字動詞の関連性だが、次のようになっている。

喝-饮；听-闻；想-思；进-入；吃-食、餐；睡-眠、寝；偷-盗、窃

藏-隐、躲、匿；看-观、睹、望、窥、视；说-述、叙、言、谓、陈、白

意味的に同義である語と語素の対応は、一対一の場合もあれば、一対多の場合もある。一字動詞は、文中で述語として使うが、語素は主に“**餐厅、食堂、饮料**”のように複合語の構成要素として振る舞う。

一方、一字語と二字語は、「**爱-爱恋；帮-帮助；比-比较；飞-飞翔；记-记忆；办-办理；哭-哭泣；睡-睡眠；写-书写；投-投掷；挖-挖掘；打-殴打；找-寻找**」のように元々の一字語に意味が同じ語素を加えることによって二字語を構成するものが多い。現代中国語では、このような必要に応じて、一字語を二字語に拡張し、また逆に縮小することはよく見られる現象である。拡張後の語義(概念的な意味)は基本的に変わらないので、筆者はこのような現象を「**単双相通**」と呼んでいる。「**単双相通**」は動詞を名詞に変えるという品詞転換、つまり動詞を「**動名詞**」に変える機能だけでなく、リズムの調整や文体上の統一の目的もある。動詞をはじめ、名詞、形容詞も一字語を難なく二字語に拡張できることは、語彙力のパラメーターであると考えている。よって学習者はいつもこの一字語は二字ではどのように言うかを意識的に覚えなければならない。この点をクリアしなければ特に作文は難しい。

## “V了”と“V过了”

魯 曉琨（文京学院大学）

“V了”の“了”は動作の実現を表します。“V过”の“过”は二つの意味を持っています。一つの意味は経験を表し、ほぼ日本語の「～したことがある」に相当します。もう一つの意味は動作の完結を表します。経験を表す“过”は“了”との区別ははっきりしているため、弁別する必要はありません。そこで動作の完結を表す“V过”と“V了”の使い分けについて考えていこうと思います。動作の完結を表す“V过”によく“了”を添えるため、“V了”と“V过了”の弁別に絞って行きます。

“V了”の“了”は動作の実現を表す。動作の実現は動詞の種類または文脈によって動作の開始、動作の途中、動作の完了のいずれも可能です。

- (1)他说得大家都哭了。(彼の話聞いてみんなは泣き始めました。)  
 (2)那本书我看了一半，还没看完。

(あの本を半分読んだが、まだ読み終わっていません。)

- (3)那件事我已经跟他说了。(あのことをすでに彼に話しました。)

例(1)では“了”は“哭”という動作が開始したことを表します。(2)では“了”は“看”という動作が途中であることを表します。(3)では“了”は“说”という動作が完了したことを表します。

例(1)(2)のように動作の開始、動作の途中を表す“了”は動作の完結を表す“过”と関連性がなく、“V了”を“V过了”に変換することができません。そのため、動作の開始や出現を表す動詞“上马、出发、开学、启程、着手、开演、下手、入手、上工、上路、动身、发车、起飞、开幕、开场、开张”などに“了”を添えることができますが、“过”を添えることができません。

- (4)那件事我已经跟他说过了。

例(3)の動作の完了を表す“说了”のみは(4)のように動作の完結を表す“说过了”に変換してもかまいません。もう少し用例を見ましょう。

- (5) a 他吃完饭就出去了。  
 b 他吃过了饭就出去了。

(彼は食事をした後、すぐ出かけました。)

- (6) a 这些书我都读了，因为我家里都有。  
 b 这些书我都读过了，因为我家里都有。

(これらの本は全部読み終わりました。なぜなら家にあるからです。)

- (7) a 少数民族的状况都研究了。  
 b 少数民族的状况都研究过了。(少数民族の状況はすでに研究しました。)

(5)~(7)の“V了”も“V过了”に置き換えてもかまいません。この場合は“V了”

が表す動作の完了と“V过了”が表す動作の完結が重なっています。両者を比べると、“V了”より“V过了”のほうは終結点に着目しています。つまり“V过了”は動作がもう済んだ、または、動作を済ませたということを示しています。そのために、起点があって終結点がない動詞に“过”を添えることができません。例えば“知道、明白、熟悉、认识、理解、组成、懂得、清楚、看透、有数、收获”等。反対に(8)~(10)のように、動作がもう済んだ、または、動作を済ませたという意味を際立たせるとき、“V过了”しか用いられません。例えば、

(8) 时钟敲过了两点，我还没睡着。

(時計はもう2時を打ったが、わたしはまだ寝付いていません。)

(9) 赶到那儿，第一场已经演过了。

(急いで駆けつけたら、第1幕はもう済んでいました。)

(10) 夫妻有时吵架，但吵闹过了也就没事了。

(夫婦は時には喧嘩しますが、喧嘩が済んだら、何もなかったかのようです。)

なお、注意すべきは同じ動詞であっても“V了”と“V过了”は意味が全く違う場合があることです。例えば、

(11) a 院子里的花都开了。(庭の花は全部咲きました。)

b 院子里的花都开过了。(庭の花は全部散りました。)

(12) a 孩子被吓哭了，怎么哄也不好。

(子どもは怖がって泣き出し、どうあやしても涙が止まりません。)

b 孩子哭过了，开始自己玩儿了。

(子どもは泣くのをやめて、一人で遊ぶようになりました。)

(11)aでは“开了”は“开”という動作の開始を表し、つまり、花が咲き始めたということを言っています。一方、(11)bでは“开过了”は“开”という動作の完結を表し、つまり花はすでに散ったということを言っています。(12)も同様に解釈できます。(11)(12)から見ると、同じ意味の動詞でも“V了”は動作の開始を、“V过了”は動作の完結を表す場合もあります。また、下記の違いも見られます。

(13) 他来了吗？(彼は来ましたか。)

a 他来了。(彼は来ました。) b 他来过了。(彼は来たが、もう帰りました。)

(14) 他去了吗？(彼は行きましたか。)

a 他去了。(彼は行きました。) b 他去过了。(彼は行ってきました。)

例(13)a“他来了”は「彼は来て、今もここにいる」と言っていますが、(13)b“他来过了”は「彼は来たが、もう帰った」と言っています。(14)a“他去了”は「彼は行っている」と言っていますが、(14)b“他去过了”は「彼は行って、もう戻ってきた」と言っています。また、他の移動動詞“回来了”と“回来过了”、“进去了”と“进去过了”なども同じような違いが見られます。

“V了”と“V过了”の使い分けを考えて使ってみましょう。食事のあとに食事を勧められたら“我吃过了”と言えよいでしょう。

絵で見ることわざ(14)

絵 張 恢

文 『中国語の環』編集室



烟酒不分家

yān jiǔ bù fēnjiā

たばこ酒は分け隔てしない。人に酒やたばこを勧める時に用いる。わたしのだとかあなたのだとか堅苦しいことはぬきに遠慮なくやろうという意。



言教不如身教

yán jiào bùrú shēn jiào

言葉で教えるよりも行動で示したほうがよい；あれこれ言い聞かせるよりも身をもって範を示したほうがよい。“言教千句，不如身教一句”とも。



药补不如食补

yào bǔ bùrú shí bǔ

薬で栄養を補うよりも食べ物で栄養を摂ったほうがよい。“～，虽然是人人皆知的常谈，实有至理。”～，言い古された諺だが，至言である。



严是爱，宠是害

yán shì ài, chǒng shì hài

（親が子を）厳しく育てるのは愛すればこそで，甘やかせば害になる。子どもは厳しく育てるべきで，甘やかし過ぎると将来を過つ。



眼睛是心灵的窗户

yǎnjīng shì xīnlíng de chuānghu

目は心の窓である。“～，只要看一下他的那对眼睛，就能猜透他的心思。”～，彼の目を見さえすれば，彼の心のうちを見て取れる。



一分耕耘，一分收获

yī fēn gēngyún, yī fēn shōuhuò

努力を重ねれば重ねた分だけ報われる。“耕耘”は耕して雑草を除く。“～，只要你付出了努力就会有收获。”～，努力しさえすれば成果が得られる。





一个巴掌拍不响

yī ge bāzhang pāibuxiǎng

片方の手のひらだけでは拍手はできない；争いやもめ事は一方だけでは起こらない。いざこざの責任は必ず双方にある。



一个老鼠坏锅汤

yī ge lǎoshǔ huài guō tāng

一匹の鼠が一鍋のスープをダメにしてしまう。一人の不心得者（ふこころえもの）が集団全体の名誉を傷つけたり利益を損なったりすることのたとえ。



一年之计在于春

yī nián zhī jì zài yú chūn

一年の計は元旦にあり；一年間の計画は元旦に決めておくのがよい。よく“～，一日之计在于晨”（～，一日の計は早朝にあり）と続けて使われる。



一笑解百烦

yī xiào jiě bǎi fán

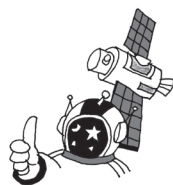
明るい笑い声はくさぐさの悩みを消し去ってくれる；元気よく笑えばいかなる愁いも忘れてしまうことができる。“一笑解千愁”とも。



艺高人胆大

yì gāo rén dǎn dà

腕があれば大胆になれる；技術が優れていれば自信をもって事に当たれる。“～，胆大艺更高”（～，大胆であれば腕はもっと上がる）とも。



有志者事竟成

yǒu zhì zhě shì jìng chéng

志さえあればいかなる事も成し遂げられる；精神一到何か成らざらん。一心岩をも通す。一念天に通ず。成語“有志竟成”に同じ。

## 太鼓と声調と青と情と

加藤 徹 (明治大学)

カタカナの擬音語を目で見ると、音の高さをなんとなくイメージできる。考えてみれば不思議です。例えば、打楽器の音をカナで擬音語的に書いた

ドッ、タン、ドド、タン、ドンタ、ドンタ、チーン、…

を、音読してみてください。多くの人は、無意識のうちに「(低めの声)ドッ(高めの声)タン、(低)ドド(高)タン、(低)ドン(高)タ(低)ドン(高)タ、(高)チーン」のように、濁音を低く、清音を高く発音する…らしい。たしかに、ドッは低音の大太鼓、タンは高音の小太鼓、チーンは高音のシンバルの響き、という感じがする。

人間の心理は不思議です。無意識のうちに、清音を高さ、濁音を低さと結びつけてしまう。この心理は、赤を見ると「暖色」と感じ、青を見ると「寒色」と感じてしまう感覚と似ている。

青といえは、中国語の“青” qīngは第1声だが、“情” qíngは第2声です。漢字の右半分は同じ「青」。発音も同じqing。でも声調だけ違う。なぜか？

日本の漢字の音読みは、「青」は「青春(せいしゅん)」「緑青(ろくしょう)」など清音です。「情」は「情感(じょうかん)」「風情(ふぜい)」など濁音。日本の漢字の音読みは、今から千数百年前の古い中国語の名ごりを残している。つまり、千数百年前の中国語では、“青”は清音だが“情”は濁音だった可能性がある。

千数百年前の中国語の四声は、今と違って、「平声、上声、去声、入声」の4種類でした。“青”も“情”も、平らに伸ばす「平声」というアクセントだった。

今から千年くらい前、中国北部の中国語は大きく変化した。「入声」は消えた。平声は、高く平らに伸ばす「陰平声」と、低いところから高みにあがる「陽平声」に分裂した。ちなみに現代の“普通话”では、陰平声を第1声、陽平声を第2声と呼びます。

“青”は清音ではじまる。昔の中国人も、清音は無意識的に高めに発音した。だから“青”は第1声になれた。が、“情”は濁音だった。昔の中国人は、無意識的に低めの声で発音した。それで“情”は陽平声つまり第2声になった。

数百年前、北の中国語で濁音というくくりが消えると、濁音だった“情”は清音に編入され、“青”と同じqingという発音になった。しかし、濁音だった昔の名ごりで、“情”は現代の“普通话”でも第2声のままである——ということらしいです。

以上、私が書いた説明は、専門的にいえばはなはだ雑で、穴だらけです。日本の漢字の音読みが濁音でも“普通话”の声調が第1声である漢字は、いくつもあります。まあ「“青”と“情”，第2声の漢字はどっちだったっけ？」と忘れたとき「情はジョウで濁音だから低め。第2声！」と思いつくヒントくらいには、なるかもしれません。

## 動詞がどんな時に重ねられるか(1)

王 志英 (沖縄大学)

「非持続性の動詞」、「心理活動を表す動詞」、「非動作動詞」、「意図性がない動詞」などが重ねられないと言われている。しかし、どんな動詞が重ねられるかについては、動詞の個別的な語彙意味からではなく、文レベル、文脈まで視点を置いて考えなければならない。重ねられる動詞には次のような特徴を見られる。

1. 叙述全体が a telic (未完了) で、動作・行為が完了していない場合

### 1.1 動詞と目的語

(1)の a は目的地“厕所”があれば、動詞と目的語が表している行為が限界性があり、完了することになるため、動詞“去”は重ねられないが、(1)の b は目的地が不定なので、動詞と目的語が表している行為が不完了なため、重ねられる。

(1) a \* 你先等等，我去去厕所就来。

b 你先等等，我去去就来。

また、目的語が非限定複数である場合なら、その動作・行為が重ねられる。

(2) 我明天到地里去拔拔草。

“拔”という動詞は「非持続性の動詞」で、重ねられないはずだが、目的語“草”は複数であるため、“拔”という動作も複数回になり、重ねられる。

目的語が特定されるが、動作・行為自体が反復することがある。

(3) a 医生拔了拔这颗牙，没拔动。

b \* 明天我去医院把这颗牙拔拔。

b は文脈で、“牙”を抜く動作を完了させる意味が強いので、“拔”は重ねられないが、a は特定された目的語“牙”を“拔”するという動作を繰り返したことを表す。

### 1.2 動詞と補語

動詞の後の補語が結果・数量・方向(目標点)などを表す時、その動詞は完了性を持ち、重ねることができない。

(4) a \* 你把作业写写完。(結果補語)

b 你写写你在日本的所见所闻。

(5) a \* 我们研究研究了多次，都没有结果。(数量補語)

b 我们好好研究研究。

(6) a \* 他走走进去了。(方向補語)

b 我们一起在公园里走走。

### 1.3 動詞と修飾語

(7) \* 今天是我们在日本的最后一场演出，我演了演戏，没干别的。

(8) 最近几年我就演演戏，没干别的。

“最近几年”により、“戏”が非限定複数になるため、“演”が重ねられる。

## 中国語検定 1 級合格体験記

西安交通リバプール大学 現代言語センター講師 田添 暢彦

2022年1月、3度目の受験で中検1級に合格しました。コロナ禍の中、Zoomでの二次試験を終えた後、私はしばらく放心状態でした。前年、諸事情で二次試験を棄権し、2年越しの準備をして臨みました。ひとまずその実力の全てを出し切ったという思いでした。2週間後、立派なケースに入った認定証書が届きました。中国語が趣味の勉強から生活の一部に、そして人生の一部に変わったこの2年間の様々な思いがこみ上げてきました。

私は学生時代に南寧に留学し、その後、広州や三亜など合わせて3年半ほど中国で暮らしました。それなりに話せるようになり、通訳案内士などの資格を取るとそのレベルで満足してしまい、あたかも中国語が出来るかのような錯覚に陥っていました。しかし、ある時中検1級の過去の問題を見て自分のレベルを思い知り、これではいけないと一念発起し、受験を決意しました。

さて、やる気にはなったもののどう対策を立てればよいのでしょうか。本屋さんで探しても1級対策用の参考書というものは、ほとんど見当たりません。つまりは付け焼刃の試験対策では太刀打ちできないということだと考え、とにかく知らない表現に出会ったら何でも覚えるということにしました。忘れるのは仕方がない、でも一度は必ず覚えるということを繰り返しました。これまで馴染みのなかった表現でも、多読乱読を繰り返すうちに2回3回と目にするようになってきました。これまで「ここまでは必要ないかな」と勝手に線を引いていた部分も、実はネイティブスピーカーにとってありふれた表現なのだと気づくこともありました。特に成語は繰り返し覚ええました。また、語学だけではなく、中国の歴史文化や文学についても中国人にとって当たり前のことは当然分かっていなければならないと思い、理解を深めるよう心がけました。

1回目、2回目の一次試験でも、決して準備を怠っていたわけではありません。しかし、とにかく1級は合格基準点が高く、あと少しというところで手が届きませんでした。3回目で通過できたのも本当に紙一重のところでした。

2年越しで迎えた二次試験はZoomでの受験となりました。これでしくじれば、また一次試験からやり直しです。極度の緊張の中、試験は始まりました。最初は中国語から日本語への通訳です。毎日メモを取りながらNHK中国語ニュースを聞き練習していたおかげで、比較的自信を持って通訳でき、緊張も取れてきました。後半は日本語から中国語への通訳です。中国語訳にはもともと苦手意識があり、最後の方は体力的にもへばって集中力が切れてくるのを感じましたが、しどろもどろにならないようななんとか最後まで踏ん張りました。終わってみると、本当にあっという間でした。